

フォローアップ項目に対する報告

2022年3月8日
東北電力ネットワーク株式会社

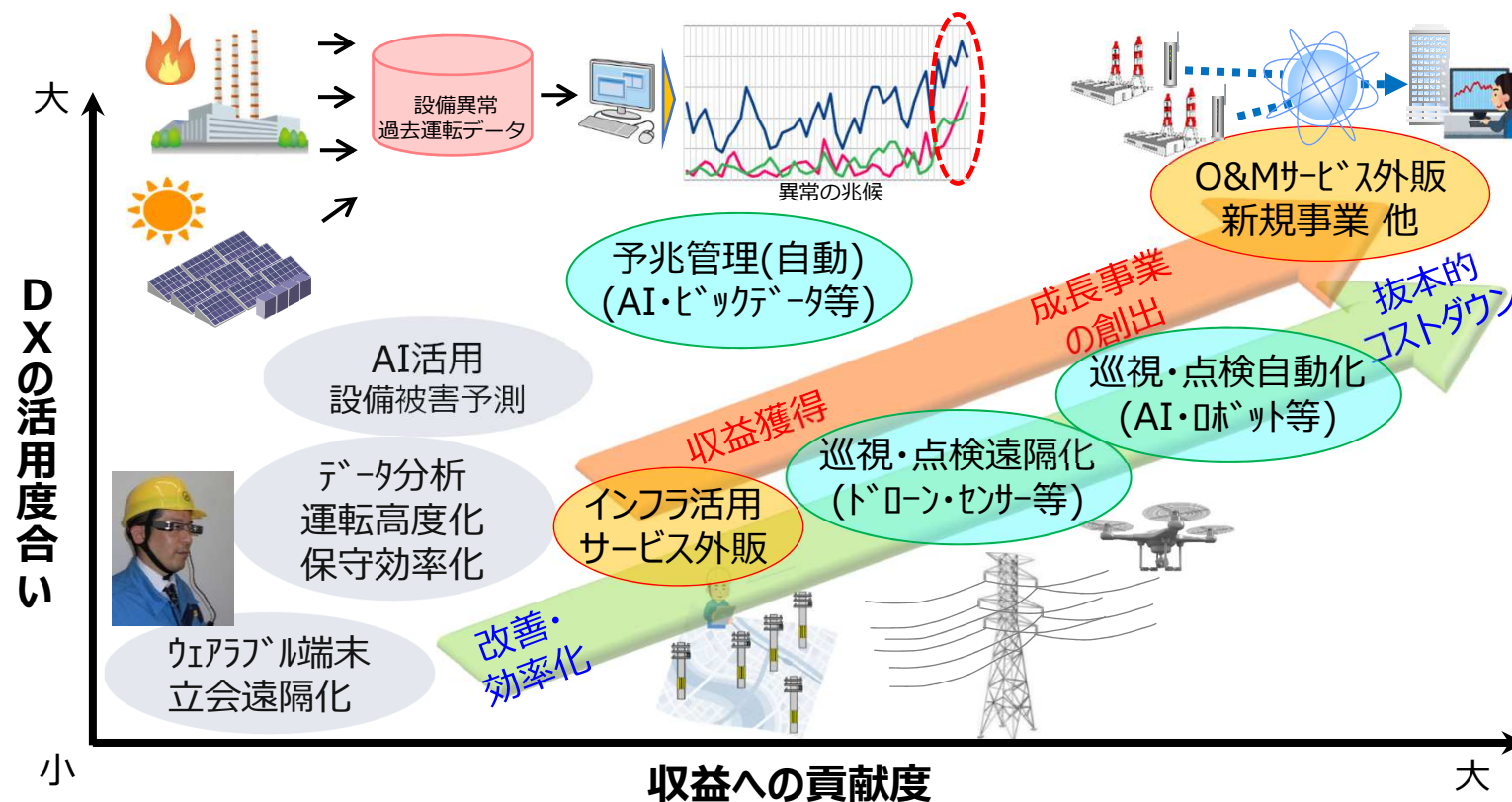
1. 電力DXへ向けた取り組み

p 2

- 基盤事業である電力供給事業において、DXによる業務の抜本的コストダウンならびに成長事業創出の取り組みを進めていきます。
- また、得られたデジタル技術をスマート社会実現事業※へ活用していくとともに、スマート社会実現に資するデジタル技術についても幅広く調査・獲得していきます。

※次世代エネルギーサービスと暮らし・ビジネス関連サービスをコア領域として、お客さまの快適・安全・安心な暮らしの実現に貢献する事業

電力DXの取り組みイメージ



- 次世代スマートメーターのデータ・ネットワークを活用し，電力DXを推進すると共に，「レジリエンス強化」，「再エネ大量導入・系統の需給安定」，「効率化・需要家利便性の向上」等，社会便益の実現を目指していきます。

◆ レジリエンス強化

- **停電検知機能**
 - ・ポーリング機能や30分値データを活用して，断線や隠れ停電等を検知して，早期に停電を解消
- **遠隔アンペア制御機能**
 - ・需給ひっ迫時に需要制限による計画停電の回避

◆ 再エネ大量導入・系統の需給安定

- **計量粒度・頻度細分化**
 - ・高粒度データやセンサ開閉器データを用いた連系検討の高度化による再生可能エネルギーの接続拡大
 - ・高粒度データや30分値による電圧集中制御および電圧管理の高度化

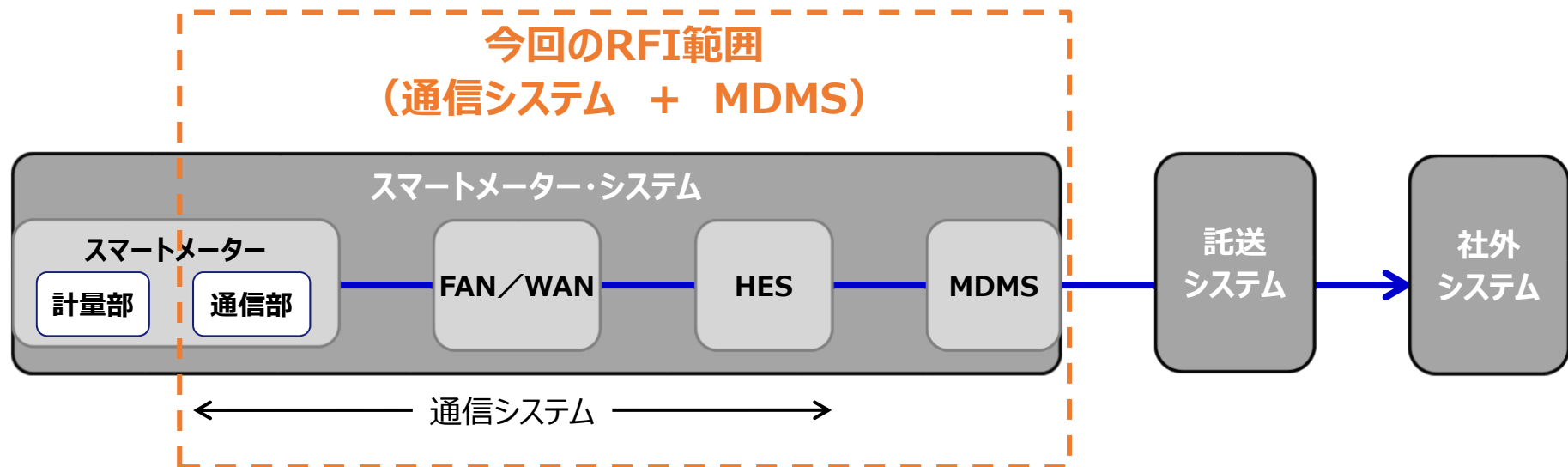
◆ 効率化・需要家利便性の向上

- **新たな価値とサービス**
 - ・スマートメーターネットワークの活用による共同検針事業等のデータ伝送サービスの展開

3. 情報提供依頼（RFI）の概要

p 4

- スマートメーター・システムの通信システム（スマートメーター通信部～HES）およびMDMSを対象として、次世代システムの実現に向けた技術情報を幅広く収集するとともに、概算費用を算出します。
- 情報提供の依頼事項は当社ホームページに掲載し、各ベンダへ広く情報提供を依頼します。
- 各ベンダからの回答を精査し、その評価結果をもって公平・公正に調達方法を選定します。



RFIにおける評価軸

実現性

経済性

将来性

4. 次世代スマートメーターシステムの開発スケジュール

p 5

- 2022年4月にRFIを発出し、2022年7月末までに評価を完了します。
 - 2023年度から詳細検討・開発を行ないます。
- なお、調達方法（RFP/競争入札/随意契約）は、RFIで確認した技術情報に基づき判断します。

